

# みらいをつくる

発行：泉佐野市教育委員会  
教育部【2022年2月10日】

## 「未来の自分を輝かせるのも自分」 (道徳科の公開授業) 新池中学校

2学期に新池中学校において、道徳科の公開授業が実施されました。新池中学校の校内研修と市の道徳教育推進教師連絡会を兼ねており、各小中学校の参加者はオンラインで授業を参観しました。授業後の班別協議や全体会も Web 会議システムを使い、新池中学校の校内研修に各校の担当者がオンラインで参加する形の研修となりました。

今年度新池中学校は道徳教育推進事業費という国の事業を受けており、畿央大学の島恒生教授にご指導をいただきながら道徳教育の研究を進めています。

公開されたのは中学校3年生の「新しい夏のはじまり」(出典:「あすを生きる」日本文教出版)です。内容項目は「向上心、個性の伸長」で、これまでの自分を振り返りながら、「未来の自分を輝かせるのも自分」ということに気付かせ、考えを深めることをねらいとしました。

授業の前半は教科書を読み、部活動がんばってきたけれど最後の大会で結果が出なかった主人公の思いを考えます。「今までの努力を無駄にたくない」「自分次第やぞ」等、「未来」「自分」というキーワードが生徒から出てきました。

教科書の内容を踏まえ、授業の後半は、これまでの自分を振り返りながら、今後の生き方について考えます。「これまで周りの人たちにたくさん時間をつくってもらってきた。これからは恩返しとして、周りの人に時間を与えられるようになりたい。」「コロナの影響で引退試合に出られなかった。その時に『今まで努力してきたことは事実やろ』ってチームメイトが言ってくれた。結果も大事やけど、過程を大事にしていきたい。」等、今後への決意ととれる意見を自分の言葉で生徒同士が語るシーンがありました。お互いへの尊敬と感動が教室の中であり、授業後の協議の中でも本音を語り合える学級であることが何より素晴らしいという意見が多く聞かれました。

学校現場では「主体的・対話的で深い学び」を実現することの難しさを日々感じているところですが、その実現をめざし、協働して取り組むことの大切さや道徳科の授業のおもしろさを実感できた授業でした。学校全体で取り組む「道徳教育」と、その要となる「道徳科」の両輪で、今後も子どもたちの心を育ててほしいと思います。



## 令和3年度

## 泉佐野市小中学生人権作品コンテスト

泉佐野市では、市内小中学生が人権について意識を高め、人権が大切にされるまちづくりの主体者として成長していくことを目的として、「泉佐野市小中学生人権作品コンテスト」を実施しています。

このコンテストは、泉佐野市教育委員会、公益社団法人泉佐野市人権協会、泉佐野市人権を守る市民の会が主催し、各団体の代表者より構成する人権作品審査会において審査し、優れた作品を表彰するとともに、広く市民啓発に活用しています。

令和3年度の人権作品コンテストには、市内小中学校の児童生徒のみなさんから、「作文」・「読書感想文」・「詩」・「標語」・「ポスター」・「書道」の全6部門で合計831点の応募がありました。どの作品にも子どもたちの思いや考え等が表現されており、素晴らしい作品ばかりでした。10月に行われた人権作品審査会において、厳正なる審査の結果、各部門、校種ごとに「最優秀賞」「優秀賞」「入選」が決定されました。

12月には、「泉佐野市 人権のつどい」において、最優秀賞・優秀賞受賞者の表彰と最優秀作品の朗読(作文・読書感想文・詩の部門)が行われました。表彰式では、子どもたちのすてきな笑顔が印象的でした。最優秀作品の朗読では、学校で学んだことや社会にある人権課題について考えたこと、そして差別の解消に向けた決意等、子どもたちの力強い言葉に、会場からはあたたかい拍手等が起こっていました。

また、作品はエブノ泉のホールや市役所でも展示され、市民のみなさまにも広くみていただきました。これからも、人権が大切にされるまちづくりのため、学校をはじめ市内全体でとりくみをすすめていければと思います。

※子どもたちの作品の一部は泉佐野市のホームページで公開されています。ぜひご覧ください。

<https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/kyoiku/gakkokyoiku/menu/8553.html>  
泉佐野市ホームページ「ホーム」→「各課のご案内」→「教育部」→「学校教育課」→「学校教育課のリンク」→「令和3年度 泉佐野市小中学生人権作品コンテスト」

